

令和3年度京都市地域リハビリテーション推進会議 摘録

日時 令和3年12月1日（水） 16時00分～17時15分

場所 京都市地域リハビリテーション推進センター 研修室

出席 委員：上原，加藤，市田，田中聖，木村耕，麻田，石黒(平山委員代理)，木村奈，林，
酒伊，松倉(久門委員代理)，井上，須蒲，菅野，西尾

事務局：小下企画課長，山口相談課長，植松支援施設課長，
林相談判定係長，小野田地域リハビリテーション推進係長，
高木高次脳機能障害支援係長，津島企画係長，渡辺企画担当

開 会

【事務局】

ただいまから令和3年度京都市地域リハビリテーション推進会議を開催する。

本日はお忙しい中お集まりいただき，御礼を申し上げます。本日は当会議としては，初めてのオンラインでの開催となる。

初めに，当センター所長の西尾から御挨拶を申し上げます。

【事務局・挨拶】

本日はお忙しい中，京都市地域リハビリテーション推進会議にお集まりいただき御礼申し上げます。また平素より当センターの運営に御理解と御支援をいただき，この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年度においては，Zoom オンラインを用いて開催させていただくことになった。昨年度はコロナ禍で書面開催となったが，今回はこのような形で開催することができたことは隔世の感がある。皆様の御協力に感謝申し上げます。

当センターは（1）地域リハビリテーションのより一層の推進と（2）高次脳機能障害者支援に重点をおいて取組を進めている。身体障害のある方が，そして高次脳機能障害のある方が住み慣れた地域で，その人らしく，生活していただける環境づくりを推進するための拠点として，様々な相談支援，研修，普及啓発に取り組んでいる。

さて，コロナ感染症蔓延下において，大きな影響があった。昨年度は，「地域リハビリテーション推進研修」，「こうじの世界」など多くの事業が中止を余儀なくされた。しかし，相談支援については，感染予防対策で親密な距離感を取れないながらも，絶やすことなく継続して実施している。さらに，支援施設に関しては，緊急事態宣言下においても入所支援は一日たりとも途切れることなく運用してきた。今年度は，様々な工夫を施し，例えば「地域リハビリテーション推進研修」に関しては，感染状況に振り回されずに，Zoom を活

用したオンライン開催と、会場開催を併せて行うハイブリッド方式により開催している。また、高次脳機能障害者支援の「入門講座」においても、臨機応変に、YouTube を活用した1週間限定のオンデマンド配信と、会場開催を併せて行うハイブリッド方式により開催している。あるいは、ホームページや Facebook を通じた情報発信にも力を入れてきた。

地域リハビリテーションの推進は、毎回述べているが、保険・医療・福祉・教育・就労・介護など関係機関の皆様と相互に連携しあいながら進めていくものであり、このような状況下での取組や課題について情報の共有化と意見交換をお願いして、来年度の事業運営に向け検討を深めてまいりたいと考えている。

本日の会議の運営に関しては様々なアクシデントもあるかもしれないが、最後まで皆様の御協力、御参加をお願いします。

【事務局】

本会議については、京都市市民参加条例に基づき、公開で開催することを説明。また、委員改選後初めての会議となるため、委員及び事務局の担当を紹介。その後、引き続き、上原委員に議長を、加藤委員に副議長を務めていただくことになった。

【議長】

それでは次第の1報告、(1) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況について、事務局の方から説明をお願いします。

1 報告

(1) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

【事務局】(山口相談課長)

資料に沿って、京都市地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について報告。

<質疑応答>

【A委員】

地域リハビリテーション交流セミナーは、障害のある市民の方への理解の推進と、社会参加の推進、それから障害のある人もない人も共に交流する催しとして、非常に重要な事業として今までやってきた。今年度からは実施を見送るとなっているが、これはこのまま予算的な問題から中止ということか。

【事務局】

本市の財政が非常に厳しい中で、イベント事業については、基本的に本市の予算計上を

見送るという全市的な方針の中で、本交流セミナーについても、予算計上が見送られているところである。

【A委員】

本交流セミナーは、この地域リハビリテーション推進会議が生まれたときから、一番大事にしてきた事業のうちの一つである。障害のある方とない方との交流の中でも、今、子どもたちは特別支援学校等に分かれてしまって、なかなか障害のある方への御理解がないので、小学校・中学校を見学に入れたり参加に入れたりして、非常に重要なものとしてやってきたものであるため、何かをまた考えていかなければいけないのではないかと思う。これがなくなるというのは、この会を発足した元委員も、ずいぶんと嘆かれるのではないかと思う。それから、ほほえみ広場は、コロナ対策のために今回中止するだけで、このままなくなるということではないということか。

【B委員】

イベント、補助金の見直しの一環ということで、今後の取扱いについて、まだ未定というような状況である。

【A委員】

継続するとも中止するともまだ分かってないということか。決まってないということか。

【B委員】

そのとおりである。

【C委員】

地域リハビリテーション推進研修の実施状況を見ると、精神障害に関する研修の参加者が非常に多いと感じるが、これは事業所の職員の方たちのニーズが高いテーマなのかと思うが、そういう対象者が非常に多いのか、それとも他でこういう研修がされてないからニーズが高いのか、どなたが講師として担当するかも少し影響していると思うので、教えてもらいたい。

【D委員】

精神障害に関する研修は、こころの健康増進センターが行っている精神保健福祉相談員の実地研修と共催という形で行っている。この研修については、こころ側の参加者も計上されているため、参加者数が多くなっている。また、関心も高く全体数が膨らんでいるということはある。

(2) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について

【議長】

続いて、(2) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について、事務局から報告をお願いする。

【事務局】

資料に沿って、高次脳機能障害者支援の実施状況等について報告。

<質疑応答>

【A委員】

家族への支援が非常に必要だと思うのだが、少しずつ進めているようであるが、この場合、こういう事業をやっているという広報は、どんな形でやっているのか。

【事務局】

各障害福祉サービス事業所や介護保険施設等に郵送やファックス、メール等でお知らせしているほか、当センターのホームページや Facebook 等でもお伝えするなど、様々な手段を用いて工夫しながら周知している。

【A委員】

令和3年度の当事者・家族交流会の実績は9月末現在ということで、今後人数はまだ増えるということか。

【事務局】

当事者・家族交流会については、基本的に月1回開催しているが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出ていたときには開催を休止していたこともあり、今年度上半期の開催については3回にとどまっている。

9月末で緊急事態宣言が解除されたので、10月以降は、現在のところ、月1回、予定どおり開催している。

【A委員】

京都市の財政状況が非常に厳しくて、いろんな事業がどんどんと縮小されて、あるいはなくなっていくということが少し心配である。もちろんコロナの関係もあるが、非常に大事な事業なので、これを継続してもらい、あるいは発展していくようにするのが大事なことはないか。財政事情が厳しいのはよく分かるが、お金がなければそれを解消するよう、今後は知恵を絞ってもらいたい。さらに、縮小される事業については代替案を出してもらい、発展的に取組を進めてもらいたい。

この地域リハビリテーション推進事業が非常に大きく転換するとき、単なる縮小でなくして発展的に、課題が解消されるように頑張ろうというふうに申し上げてきたと思うが、各職種団体の方々から、貴重な御意見をもらって、この事業がさらに発展するように御助力いただきたい。

【E委員】

この会議は、ある意味プラットフォームというか、様々な専門家、それから関係者が集まっているので、大事な会議だと思う。

一つは、リハビリテーションの専門職、それから当事者・家族、こういったところへの働きかけはしっかりされているが、地域の人たち、とりわけ民生委員さんとか老人福祉委員さんとか、こういった方々への研修というか、理解を深めていくアプローチ、これも地域リハにとって大事な課題と思う。

それから、職場や企業へのアプローチも課題になってくると思う。その際、抽象的な学習ではなく、事例を使った、Aさんの場合、Bさんの場合というような、一つの物語でもって理解を深めていくという、症状の理解、あるいは生活のしんどさの理解、社会資源の使い方、こういったものも事例があるととても分かりやすいので、この点も今後お願いしていきたい。

最後に、説明の中で、帰る家がないという話があった。単に生活の質の向上というだけでなく、生活基盤に関わるような課題から、一人一人の例えば表現活動、アートも含めた生活を豊かにしていくものも含めて、このセンターも含めて様々な人たちがアプローチしているこの効果について、どういった評価ができるのかという、そういったことも、今後考えていく必要がある。

【事務局】

貴重な御意見をいただき感謝する。

本日いただいた御意見を踏まえ、より一層充実した取組を行ってまいりたいと考えているので、引き続き御協力をお願いしたい。